

開催日時：2022年11月25日（金）16:00-19:00

開催場所：オンライン会議（Zoom）+横浜国立大学 研究推進機構（N9-2）2F会議室

参加人数：100名程度

議論の主なテーマ：地域課題実習「モビリティ・デザインの実践」の具体事例に基づき、総合知の活用について意見を伺う。

プログラム概要：

- ・学生より地域課題実習「モビリティ・デザインの実践」に関する中間報告
- ・内閣府より総合知中間とりまとめに関する説明
- ・パネルディスカッション（学生、企業、自治体関係者等が多数参加。学生が主役のディスカッション）

## 活用事例の概要：地域課題実習「モビリティ・デザインの実践」

（有吉 亮 特任准教授 大学院都市イノベーション研究院）

横浜国大では、地域課題解決の実践能力を養う「地域課題実習」を開講している。「モビリティ・デザインの実践」は、地域課題実習のテーマの1つであり、「人々が移動しやすいまちの実現」を目的に、交通とまちづくりに関する課題解決やビジョン実現に向け、自治体や企業と協働しながら、多様な学部 to 属する学生が複数のプロジェクト（アプリやサービスの開発等）に取り組んでいる。

- ・地域課題実習は、グローバルな視野をもって地域課題を解決するための実践能力を身につける全学部向けの教育プログラム。「モビリティ・デザインの実践（MD）」は、地域課題実習の25あるテーマの1つ。
- ・多様な学部 to 所属する大学1~4年生が、「移動しやすいまちの実現」に向けて自治体、企業等と協働。
- ・異なる専門分野の教員陣が協力してマネジメント。大学職員として雇用された研究室学生がリエゾンを担う。
- ・全参加者の異なる「知」の持ち寄りによる協働を通じて、社会課題解決のための活力を創出。
- ・学生は、単なる提案にとどまらず、それをサービスや事業として社会実装するための産学官の「共創」に、責任を持って主体的に関わる。（学生が代替わりしても、活動を継承・発展していく体制を構築）

## 意見交換・アンケートにおける主な意見

### (場の構築)

- ・多様な人材や知が集まるようなプラットフォームづくりに力を入れるべき。
- ・1つのテーマを定め、それを皮切りに自由に話せる場がよい。
- ・他業種の人が集まり、**学生でも入りやすい場**があるとよい。

### (人材育成)

- ・経営から**権限を与えられたファシリテーター**の存在が必要。
- ・総合知活用人材の育成には、**縦割り、部門別組織の見直し**が必要。
- ・人事異動等で人と人の**つながりを途切れさせない**ことが必要。
- ・**成功体験を持つ方**のコンサルティングが必要。

### (人材活用・キャリアパス (評価) )

- ・定性的な取り組みによる**成果の評価指標**が必要。

### (総論)

- ・総合知には**役割分担してやっていたプロセスも共有**することが重要。
- ・総合知レベルの向上には各界の連携は不可欠。
- ・成果物の著作権保護と情報開示方法も考えておいた方がよい。
- ・自治体、大学、産業界が連携した総合知の取組の環境づくりが必要。